

「川島町環境基本計画」における 取組状況について

【令和5年度】

～これは「雑紙(ざつがみ)」として処分できます～

施策取組状況確認シート	
基本方針	1 自然環境の保全
対象分野	1 自然景観(農地)
環境保全の目標	自然景観の形成により、田園景観を適正に保全する。
行政の施策	① 田園環境の保全と農業の活用 ② 自然景観の保全・創出に向けた広報・PR
取組事業名	①-1 経営所得安定対策推進事業 ①-2 多面的機能支払交付金事業 ①-3 農地集積事業(農地中間管理事業) ②-1 農業委員会だよりにてPR
計画期間	①毎年度実施 ②R4より定期的に実施
成果指標	①-1 水稻生産量 ②-2 組織数 ③-3 農地中間管理事業を活用した農地集約・集積面積
R5目標値	①-1 各農家が主体的に需要に応じた生産を行う(981ha) ①-2 1組織増やし計7組織にする。 ①-3 農地中間管理事業を活用した農地集積面積 累計811ha(総合振興計画と合致)。
R5実績値	①-1 各農家が主体的に需要に応じた生産(942ha) ①-2 1組織増え計7組織となる。 ①-3 農地中間管理事業を活用した農地集積面積・累計804ha(総合振興計画と合致)。
R6目標値	①-1 水稻の生産数量目標の達成。 ①-2 1組織増やし計8組織にする。 ①-3 農地中間管理事業を活用した農地集積面積 累計820ha。
最終目標値	①-1 需要に応じた生産の達成。農業者の所得向上。 ①-2 各年度1組織設立。各地区ごと(旧村単位)に1組織以上。 ①-3 農地中間管理事業を活用した農地集積面積 累計850ha(R12)。
実施・進捗状況評価	○:概ね実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	①-1 $942\% \div 981\% = 96.0\%$ ①-2 1件追加(達成) ①-3 $811\% \div 820\% = 98.9\%$
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	①-1 主食用米の消費低下、肥料等の価格応高騰等による、稲作農家の負担増。 ①-2 地区で事業を推進するリーダーがいない。事務が煩雑。 ①-3 未登記農地。制度が活用できない農地(狭小、陸田、放棄地等)の存在。
担当課	農政産業課

施策取組状況確認シート	
基本方針	1 自然環境の保全
対象分野	1 自然景観(農地)
環境保全の目標	自然景観の形成により、田園景観を適正に保全する。
行政の施策	① 田園環境の保全と農業の活用 ② 自然景観の保全・創出に向けた広報・PR
取組事業名	② 桜づつみ及び、川の広場・さくら通りの保守管理
計画期間	② 通年(随時実施)
成果指標	② 釘無地内堤防上の桜堤及び、川の広場・さくら通りの適正管理回数
R5目標値	② 2回(業務委託による管理を実施)
R5実績値	② 3回(業務委託による管理を実施)
R6目標値	② 4回(業務委託による管理を実施)
最終目標値	② 4回(業務委託による管理を実施)
実施・進捗状況評価	◎:順調に実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値／R5目標値	100%
目標達成度評価	◎:目標以上に達成した(101%以上を達成)
課 題	② 業務委託による管理を実施しているが、対象地が広範囲に及び、除草作業回数も限りがある。年間を通した管理が困難である。
担当課	まち整備課都市計画G

施策取組状況確認シート	
基本方針	1 自然環境の保全
対象分野	1 自然景観
環境保全の目標	自然景観の形成により、田園景観を適正に保全する。
行政の施策	① 田園環境の保全と農業の活用 ② 自然景観の保全・創出に向けた広報PR
取組事業名	① 学校給食センターの運営事業(地元産食材の利用拡大)
計画期間	① 毎年度実施(通年実施)
成果指標	① 地元産食材の使用割合 ※「米」については、川島町産米 ※「いちじく」及び「いちご」に関しては、旬の時期における給食提供には、全量町内産を使用する。その他の食材については、指標として定めることが困難。
R5目標値	① 米については、「川越藩のお蔵米 彩のきずな」を100%使用している。 なお、令和元年度(平成31年度)より、KJブランド認証米であり、減農薬・有機肥料の使用を徹底した「川越藩のお蔵米 彩のきずな」を学校給食で使用している。 いちじく及びいちごについても、町内産を100%使用している。
R5実績値	① 米・いちじく・いちごについては、100%、人参について、地元生産者から「さまちか」を通じて使用した。必要量を仕入れできる範囲で使用した
R6目標値	① 米・いちじく・いちごについては、100%。①以外に使用できる品目を増やしていく。
最終目標値	① 米・いちじく・いちごについては、100%。以外の食材については、生産数量が僅少のため、品目や使用の検討が必要。
実施・進捗状況評価	◎:順調に実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	① 米・いちじく・いちごについては、100%。①以外の食材については、生産数量が僅少のため、品目や使用の検討が必要。
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	本町は水田地帯であり、野菜の作付面積が限られるため、品目や収穫量が少なく、安定した必要量を確保できないことがある。よって、米以外の地場産食材の使用率はなかなか伸ばすことが困難な状況にある。
担当課	教育総務課(給食グループ)

施策取組状況確認シート	
基本方針	1 自然環境の保全
対象分野	2 河川、水辺
環境保全の目標	水辺空間を保全・回復し、身近な自然としての利用を推進する。
行政の施策	① 水辺空間の保全の推進 ② 水辺空間の利用の推進
取組事業名	② 平成の森公園内に整備された水辺空間の管理
計画期間	② 通年(随時実施)
成果指標	② 平成の森公園内の「修景池」「ショウブ園」の景観を維持するために適切な維持管理を実施。
R5目標値	② 14回(業者委託による管理)
R5実績値	② 14回(業務委託による管理を実施)
R6目標値	② 14回(業務委託による管理を実施)
最終目標値	② 適正な維持管理を継続し、身近な自然環境、水辺空間の活用促進を目指す。
実施・進捗状況評価	◎:順調に実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	100%
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	② 修景池の植物(古代蓮)が増殖し過ぎたため、景観を損ねる。適正な管理が課題である。
担当課	まち整備課都市計画G

施策取組状況確認シート	
基本方針	1 自然環境の保全
対象分野	3 動植物、生態系
環境保全の目標	本来の生態系を回復し、貴重な生態系を未来に伝える。
行政の施策	① 生物生息空間の確保 ② 外来生物対策の推進 ③ 生物多様性への理解促進
取組事業名	①・②・③荒川太郎右衛門自然再生協議会と連携した事業実施。特定外来生物の防除や取扱いに関する情報発信・周知啓発。 (一般財団法人セブニーイレブン記念財団、荒川太郎右衛門地区自然再生協議会、国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所、川島町の4者で、「埼玉セブンの森」事業の連携に関する協定を締結(R4.11.9)。自然再生地「中池」エリアを活動対象に、自然環境の保全・整備、次世代に引き継いでいくこと目的とする。)
計画期間	通年
成果指標	① ② 普及・啓発のための、広報、啓発回数。 ③
R5目標値	① ② 普及・啓発として、町広報、HP、チラシの等による周知 3回／年。 ③
R5実績値	3回／年。 ・町広報誌 6月号(「オオキンケイギク」の駆除にご協力ください) ・イベント周知(6月:ミドリシジミが住めるハンノキを守ろう。11月:外来種抜き取り選手権 場所:太郎右衛門自然再生地、主催:荒川太郎右衛門自然再生協議会) ・特定外来生物クビアカツヤカミキリ発生に伴い職員向け研修会(県出前講座)開催した。
R6目標値	3回／年
最終目標値	・継続的な広報、啓発に努め、町民の生物多様性への認知度50%を目標とする。
実施・進捗状況評価	○:概ね実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値／R5目標値	100%
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	・荒川太郎右衛門自然再生協議会と連携した事業をはじめ、生物多様性、外来生物対策への理解を広める普及・啓発は広報、イベント周知等により実施しているが、町民の認知度調査は未実施のため不明となっている。アンケート調査は次回の計画見直し時を予定しているが、引き続き、広報・啓発を継続していく必要あり。また、町内で初めてクビアカツヤカミキリ(幼虫)が確認された(R5.12 梅ノ木地内・県内24番目)。被害拡大防止のためには、早期発見・早期防除、共通認識が必要なため、町職員向け、研修会(県出前講座)を開催。関係課と連携しながら対応する必要がある。
担当課	町民生活課(生活環境G)

施策取組状況確認シート	
基本方針	1 自然環境の保全
対象分野	3 動植物、生態系
環境保全の目標	本来の生態系を回復し、貴重な生態系を未来に伝える。
行政の施策	② 外来生物対策の推進
取組事業名	②-1 川島町鳥獣被害防止計画 ②-2 埼玉県アライグマ防除実施計画に基づく、防除の実施 ②-3 ナガエツルノゲイトウ対策 ②-4 スクミリンゴガイ対策
計画期間	②-1 令和3年度～令和5年度計画期間(R6～R8県庁と本協議中) ②-2 毎年度実施 ②-3、4 計画はないが、今後立案する必要があるかもしれない
成果指標	②-② アライグマ捕獲頭数（※計画がある場合にはそれに則って、実施していき、それ以外については随時、状況に応じ臨機応変に対応できる範囲で対応。）
R5目標値	②-1 川島町鳥獣被害防止計画に基づき進める ②-2 埼玉県アライグマ防除実施計画に基づく防除（※予算措置400頭分・アライグマ以外100頭分） ②-3～4 状況に応じ臨機応変に対応できる範囲で対応
R5実績値	②-2 アライグマ等436頭(R6.2現在) ②-4 スクミリンゴガイ30kg
R6目標値	②-2 アライグマ400頭・アライグマ以外100頭
最終目標値	②-1 農作物の被害の減少 ②-2 アライグマの生息数の減少
実施・進捗状況評価	○:概ね実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	②-2 87.2%
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	一つの自治体単位で処理をしてはキリがなく、全県で一斉に駆逐作戦を展開でもしなければ根絶には至らない。新たな外来生物が増えている。適切な処理体制を構築し、迅速な対応をしなければならない。
担当課	農政産業課

施策取組状況確認シート	
基本方針	1 自然環境の保全
対象分野	3 動植物、生態系
環境保全の目標	本来の生態系を回復し、貴重な生態系を未来に伝える。
行政の施策	① 生物生息空間の確保 ② 外来生物対策の推進
取組事業名	① ハンノキプロジェクト(つばさ南小学校) ② 「荒川の草花を育てようプロジェクト」(つばさ北小学校)
計画期間	①-1 荒川で減少しているハンノキ林とハンノキに依存する生き物の保存計画(国土交通省との連携事業により毎年度実施)。 ①-2 「三ツ又沼ビオトープ」の環境保全(国土交通省との連携事業により毎年度実施)。 ②-1 荒川に生息する草花を育てるため、荒川の草花の苗を育て、種の収穫を通じて環境について学ぶ。 ②-2「国土交通省との連携事業により、令和元年(平成31年度)より実施。
成果指標	①-1、①-2、②-1、②-2 とも、毎年度、子どもたち(児童)に自分たちを取り巻く環境への関心を高める機会を持つことができたか。
R5目標値	①-1、①-2、②-1、②-2 国土交通省との連携事業として実施しており、総合学習の一環として実施。
R5実績値	国土交通省との連携事業として実施しており、総合学習の一環として実施
R6目標値	①-1、①-2、②-1、②-2 国土交通省との連携事業として実施しており、総合学習の一環として実施。
最終目標値	①-1、①-2、②-1、②-2 国土交通省との連携事業として実施しており、総合学習の一環として、継続的に実施していく。
実施・進捗状況評価	○:概ね実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	100%
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	①-1、①-2 ハンノキプロジェクトは、国や県の支援により支えられている。川島町にある三ツ又沼ビオトープで、ハンノキプロジェクトを実施していることについて、広報活動を積極的に行うことで、地元の多くの皆様にこのような活動が長く行われていることに興味を持っていただくことが課題である。②-1、②-2 「荒川の草花を育てようプロジェクト」についても、国の支援に支えられている。現地まで行く道路が狭いため交通手段等が課題である。
担当課	教育総務課(学校教育グループ・つばさ南小学校・つばさ北小学校)

施策取組状況確認シート	
基本方針	1 自然環境の保全
対象分野	4 自然とのふれあい
環境保全の目標	自然とのふれあいの推進により、自然環境保全に向けた意識を高める。
行政の施策	①自然とふれあえる場の整備 ②自然とふれあう機会の充実
取組事業名	①地域子ども教室(2箇所で実施) ②自然体験教室
計画期間	①平成18年度から実施中 ②平成26年度から実施中
成果指標	①各地区の体験活動における環境学習の導入件数 ②事業の実施及び参加者数
R5目標値	①「環境学習」を主題とした活動を実施する。 実施例:「田植え、稲刈り」(伊草っ子くらぶ)「さいたま水族館で近郊の生態系を学ぶ」(つばさ南っ子) ②荒川太郎右衛門地区自然再生協議会等、荒川流域の自然保護活動を行っている団体や、町内の企業等と連携し、「環境学習」を主題とした講座を実施する。 はるかぜウオーク:参加者数(目標)270名。公民館講座:参加者数(目標)各回20名。
R5実績値	①「田植え」(伊草っ子くらぶ)「さいたま水族館で近郊の生態系を学ぶ」(つばさ南っ子)等を実施した。 ②(1)はるかぜウオーク時に、荒川太郎右衛門地区自然再生協議会等、荒川流域の自然保護活動を行っている団体の発表会・見学会を実施(参加者数:226名) (2)「生き物ふしぎ大発見～小学生理科教室～」(公民館講座)を実施(参加者数:8名) 「家庭菜園体験」(公民館講座)を実施(参加者数:24名)
R6目標値	①各教室で1回以上の自然体験、環境を考える教室を実施する。 ②「環境学習」を主題とした講座を実施し、参加者数を増やす。 (はるかぜウオーク:200名、公民館講座:各回20名)
最終目標値	①各教室において「環境学習」を主題とした活動を年間1回程度実施する。 ②(1)参加者数200名を目標とする。(はるかぜウオーク) (2)参加者数各回20名を目標とする。(公民館講座)
実施・進捗状況評価	◎:順調に実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	①100% ②(1)80% (2)80%
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	①実施年に応じて、「田植え稲刈り」や「さいたま水族館見学」といった活動を通して、環境について学んでいる。今後も活動を継続していくとともに、既存の活動の中で環境問題にふれることができるように工夫したい。 ②天候によって実施が左右される。自然環境の保全という趣旨だけでは参加者の興味・関心を得ることが難しい。自身が住んでいる地域の自然環境に興味を持たせる工夫が必要である。
担当課	生涯学習課

施策取組状況確認シート	
基本方針	2 生活環境の保全
対象分野	1 大気環境
環境保全の目標	大気質の監視を継続し、大気汚染の未然防止に努める。
行政の施策	① 大気環境への負荷の軽減 ② 大気環境の監視と保全意識の高揚
取組事業名	①-1 町環境保全条例に基づくアイドリングストップの推進 ①-2 東松山環境管理事務所と連携した事業者への指導・立入確認 ② 大気環境(川島自排局)の測定結果公開、野外焼却原則禁止の周知・指導
計画期間	①-1 通年 ①-2 通年 ② 通年
成果指標	①-1 駐車場(アイドリング)関連の苦情件数減少 ②-2 立入件数の減少 ② 環境基準の達成状況、野外焼却の原則禁止に関するPR周知回数
R5目標値	①-1 0件 ①-2 0件 ② 環境基準の達成、1回/年
R5実績値	①-1 0件 ①-2 0件 ② 環境基準の達成、2回/年(広報4月号・11月号:STOP「野焼き」)
R6目標値	①-1 0件 ①-2 0件 ② 環境基準の達成、2回/年
最終目標値	①-1 0件 ①-2 0件 ② 環境基準の達成、2回/年
実施・進捗状況評価	◎:順調に実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	①-1 100% ①-2 100% ② 100%、200%
目標達成度評価	◎:目標以上に達成した(100%を超える達成)
課 題	・冷凍車等が必要な荷物の積み降ろしをする施設(冷凍食品等を扱う事業所、配送センターなど)の設置者は、アイドリング抑制のために外部電源設備を設置するよう努めなくてはならないが、費用面から思うように進んでいない現状がある。 ・町内での火災の原因(直近5年間)の第1位が「たき火(野外焼却)R5:4件」であり、消防署としても課題として捉えている。消防署と生活環境グループで連携し、野外焼却の禁止、危険性について広報啓発・情報発信を務めていく必要がある。
担当課	町民生活課(生活環境G)

施策取組状況確認シート	
基本方針	2 生活環境の保全
対象分野	1 大気環境
環境保全の目標	大気質の監視を継続し、大気汚染の未然防止に努めます。
行政の施策	②大気環境の監視と保全意識の高揚
取組事業名	①施設から排出される排ガス等(ばい煙測定)環境調査
計画期間	焼却施設が稼働を停止するまで毎年実施
成果指標	国が定める基準値(規制値未満)の達成率
R5目標値	各項目の規制基準の達成
R5実績値	下記の計量項目に対し、調査を実施をしたところ国が定めている排出基準値を全て下回る結果となった。 ばいじん濃度、全硫酸化物量、窒素酸化物濃度、塩化水素濃度、全水銀濃度
R6目標値	各項目の規制基準の達成
最終目標値	焼却施設の停止まで、各項目の規制基準の達成
実施・進捗状況評価	◎:順調に実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	100%(予定した検査回数、測定値は基準未満)
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	施設の経年劣化により、排ガス規制機能などの能力が低下してきていることから、施設のメンテナンスが重要となる。
担当課	町民生活課(施設管理グループ)

施策取組状況確認シート	
基本方針	2 生活環境の保全
対象分野	1 大気環境
環境保全の目標	大気質の監視を継続し、大気汚染の未然防止に努める。
行政の施策	①大気環境への負荷の軽減(ごみの野焼き禁止) ②大気環境の監視と保全意識の高揚
取組事業名	①農地パトロール
計画期間	①令和2年4月1日～令和8年3月31日 年1回実施
成果指標	①野焼き通報件数
R5目標値	①農地パトロールを農業委員会全体で、年1回実施(タブレットの活用) 野焼き通報件数:0件
R5実績値	①農地パトロールを農業委員会全体で、年1回実施(タブレットの活用)。野焼き通報件数:0件
R6目標値	①農地パトロールを農業委員会全体で、年1回実施(タブレットの活用) 地区ごとに年1回のパトロールを実施(タブレットの活用) 野焼き通報件数:0件
最終目標値	①農地パトロールを農業委員会全体で、年1回実施(タブレットの活用) 地区ごとに年3回のパトロールを実施(タブレットの活用) 野焼き通報件数:0件
実施・進捗状況評価	○:概ね実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	0件
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	野焼きについては、基本的に禁止されていることを知らない方も多く、広報紙や農業委員会だより等で周知しているが、通報等はないものの、年間で数件は発生している状況である。 タブレットは、土地の整合性が2割程度とれないことから、使用できない状況である。
担当課	農業委員会事務局

施策取組状況確認シート	
基本方針	2生活環境の保全
対象分野	2水環境
環境保全の目標	四方を河川に囲まれた美しい水辺環境を守るため、生活排水の適正処理と水質の監視により、より良い水環境を創出する。
行政の施策	① 適正な排水対策の推進 ② 水質の監視と保全意識の高揚
取組事業名	①-1 小型合併処理浄化槽設置の普及 ①-2 小型合併処理浄化槽の適切な維持管理 ②-1 比企河川合同水質調査 ②-2 水質への負荷削減に向けた広報・啓発、情報提供。
計画期間	①-1 通年 ①-2 通年 ②-1 令和5年4月24日～令和6年2月22日 ②-2 通年
成果指標	①-1 } 河川水質の環境基準(BOD:生物化学的酸素要求量)達成率 ①-2 } (※町内7カ所(①越辺川(中山用水樋管(B)) ②市野川(神明用水取水口 ②-1 } (C) ③安藤川起点(A) ④安藤川中間点(A) ⑤安藤川(町営墓地北側)(A) ②-2 } ⑥横塚川樋管(A) ⑦梅ノ木・古凍貯水池(C))、4回/年の調査結果による。 (環境基準は水域ごとに異なる。A:2.0mg/ℓ以下・B:3.0mg/ℓ以下・C:5.0mg/ℓ以下)
R5目標値	①-1 } ①-2 } 71.4%(※ 基準達成 20地点/28地点) ②-1 } ②-2 }
R5実績値	①-1 } ①-2 } 75.0%(※ 基準達成 21地点/28地点) ②-1 } ②-2 }
R6目標値	①-1 } ①-2 } 78.9%(※ 基準達成 22地点/28地点) ②-1 } ②-2 }
最終目標値	①-1 } ①-2 } 89.3%(※ 基準達成 25地点/28地点) ②-1 } ②-2 }
実施・進捗状況評価	◎:順調に実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	105.0%
目標達成度評価	◎:目標以上に達成した(100%を超える達成)
課 題	・水質汚濁の原因の一つとして生活排水の汚れが考えられる。特に単独浄化槽については、トイレ以外の生活排水が未処理のまま流れてしまうため、合併浄化槽への転換が水質汚濁防止に効果的である。ただし、既に水洗化されていること、また、補助金を活用しても、自己負担が発生してしまうなど、転換への動機付けが弱く、思うように転換が進まない。
担当課	町民生活課(生活環境G)

施策取組状況確認シート	
基本方針	2生活環境の保全
対象分野	2水環境
環境保全の目標	四方を河川に囲まれた美しい水辺環境を守るため、生活排水の適正処理と水質の監視により、より良い水環境を創出する。
行政の施策	① 適正な排水対策の推進 ② 水質の監視と保全意識の高揚
取組事業名	① 雨水排水処理の指導
計画期間	① 通年(随時実施)
成果指標	① 開発等相談時における雨水排水処理基準の指導率
R5目標値	① 100%
R5実績値	① 100%
R6目標値	① 100%
最終目標値	① 100%
実施・進捗状況評価	◎:順調に実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	100%
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	① 市街化区域内の一定規模以下の開発行為で、開発事前相談がない場合には、雨水排水処理基準についての行政指導が行えないケースが生じている。
担当課	まち整備課都市計画G

施策取組状況確認シート	
基本方針	② 生活環境の保全
対象分野	2 水環境
環境保全の目標	四方を河川に囲まれた美しい水辺環境を守るため、生活排水の適正処理と水質の監視により、より良い水環境を創出する。
行政の施策	①適切な排水対策の推進 ②水質の監視と保全意識の高揚
取組事業名	①下水道未接続世帯への下水道接続推進
計画期間	①随時
成果指標	① 下水道接続推進 ②-1 町公共下水道から流域関連公共下水道へ流入する下水道の水質調査 ②-2 特定事業所(7事業所)の排水水質調査
R5目標値	①下水道接続率 98.0%
R5実績値	①下水道接続率 98.1%
R6目標値	①下水道接続率 98.3%
最終目標値	①100%
実施・進捗状況評価	◎:順調に実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	①98.1%/98.0%=100.1%
目標達成度評価	◎:目標以上に達成した(100%を超える達成)
課 題	下水道接続の意義については理解してもらえるが、高齢者世帯や経済的な理由により接続ができない世帯があり、接続に至っていない。
担当課	上下水道課(下水道グループ)

施策取組状況確認シート	
基本方針	2 生活環境の保全
対象分野	3 騒音・振動
環境保全の目標	騒音公害等の少ない、静かで落ち着いた環境を守る。
行政の施策	① 騒音・振動対策の推進 ② 公害苦情の適正処理
取組事業名	① 事業者に対して、法や県条例に基づく指導、遵守の徹底 ② 公害に関する苦情への速やかな対応及び発生減への指導
計画期間	① 通年 ② 通年
成果指標	② 苦情件数
R5目標値	② 苦情件数 3件
R5実績値	② 苦情件数 2件(工場・資材置き場からの騒音)
R6目標値	② 苦情件数 3件
最終目標値	② 苦情件数
実施・進捗状況評価	◎:順調に実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	150% 公害苦情件数自体は減少傾向にあるが、対応が必要な案件は少なからず発生している。その都度、規制値等の遵守を徹底させるよう、適正な指導を行っている。
目標達成度評価	◎:目標以上に達成した(100%を超える達成)
課 題	①、② 苦情については状況等が様々で、毎回慎重な対応が求められる。
担当課	町民生活課(生活環境G)

施策取組状況確認シート	
基本方針	2 生活環境の保全
対象分野	4 その他公害防止
環境保全の目標	公害の未然防止により、良好な生活環境を確保します。
行政の施策	②その他公害防止に向けた取組の実践
取組事業名	②放射性物質測定検査(焼却灰・飛灰)
計画期間	焼却施設が稼働を停止するまで毎年実施
成果指標	国が定める基準値(規制値未満)の達成率
R5目標値	規制値未満の数値
R5実績値	下記の計量項目に対し、調査を実施をしたところ国が定めている排出基準値を全て下回る結果となった。 放射性ヨウ素、放射性セシウム
R6目標値	各項目の規制基準の達成
最終目標値	焼却施設の停止まで、規制値未満の数値を継続させる。
実施・進捗状況評価	◎:順調に実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	100%(予定した検査回数、測定値は基準未満)
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	放射性物質測定検査については、東日本大震災以降、継続的な測定を実施しているが、基準値を大幅に下回る結果が続いている。今後も下回る結果が予想されるため、測定廃止も考える必要があるが、焼却灰・飛灰については、リサイクル処理として熊谷市内のリサイクル工場へ持ち込みしている中で、熊谷市から各自治体、一部事務組合に測定依頼があるため、町単独の判断で測定廃止を決めることは困難。
担当課	町民生活課(施設管理グループ)

施策取組状況確認シート	
基本方針	3快適環境の保全
対象分野	1公園・緑地
環境保全の目標	公園・緑地の適正管理や景観の創出により、好適な地域環境を形成する。
行政の施策	① 公園・緑地の適正な整備と維持・管理 ② 良好な景観の形成・創出
取組事業名	①-1 公園、緑地の適正な維持管理 ①-2 鳥羽井沼周辺公園化事業の推進(整備) ② 違反屋外広告物の監視強化
計画期間	①-1 通年(随時実施) ①-2 公園整備完了まで ② 通年(随時実施)
成果指標	①-1 定期的な改修修繕等の実施や、大規模な整備については計画的に実施し、緊急性の高いものについては早急な対応を実施。 ①-2 鳥羽井沼周辺の公園化 ② 定期的に禁止地域をパトロールし、違反指導を実施。
R5目標値	①-1 定期的な改修修繕等の実施・検討。 ①-2 公園化に向けての整備、管理、活用方法の検討。 ② 改善率50%
R5実績値	①-1 定期的な改修修繕等の実施・検討。 ①-2 公園化に向けての整備、管理、活用方法の検討。 ② 改善率51%(改善除去数:21箇所/違反看板数:41箇所)
R6目標値	①-1 定期的な改修修繕等を実施・検討していく。 ①-2 公園化に向けての整備、管理、活用方法の検討。 ② 改善率50%
最終目標値	①-1 施設の更新・長寿命化を検討し、適切な管理を実施していく。 ①-2 令和7年度末(公園整備完了予定) ② 65%
実施・進捗状況評価	◎:順調に実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	①-1 定期的な改修修繕等の実施や、大規模な整備については計画的に実施し、緊急性の高いものについては早急な対応を実施した。 ①-2 公園整備完了 ② 改善率65%
目標達成度評価	◎:目標以上に達成した(100%を超える達成)
課 題	①-1 施設の老朽化が著しい。施設の更新または長寿命化の検討が必要である。 ①-2 公園化に向けた基本設計が未実施であり、事業の停滞が懸念される。 ② すべての違法看板を把握するのが困難であること
担当課	まち整備課(都市計画G)

施策取組状況確認シート	
基本方針	3 快適環境の保全
対象分野	2 歴史・文化
環境保全の目標	地域の特徴や個性を活かしながら、後世に残すよう努める。
行政の施策	文化財の保護
取組事業名	①文化財の保存事業 ②文化財の調査事業 ③文化財に対する意識向上事業
計画期間	継続的に実施する。
成果指標	①文化財の保存・活用に関する事業を実施する。 ②町内の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の開発行為に対して、埋蔵文化財の有無を確認するため、試掘調査を実施する。 ③かわじま郷土資料展示室を活用して、郷土の歴史・人物・自然環境などに関する講座を実施する。
R5目標値	①年2回の防災設備の点検を実施する。 ②包蔵地に係る埋蔵文化財について、開発予定地が該当する場合は、試掘を実施する。 ③川島町の歴史に関する講座を実施する。
R5実績値	①国指定重要文化財広徳寺大御堂の防災設備保守点検事業に補助金を交付予定。 ②町内の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の開発行為に対して、埋蔵文化財の有無を確認するため、1件(堂地遺跡)の試掘調査を実施した。 ③かわじま郷土資料展示室講座「ふるさと歴史探訪」を開催予定。
R6目標値	①年2回の防災設備の点検を実施する。 ②包蔵地に係る埋蔵文化財について、開発予定地が該当する場合は、試掘を実施する。 ③郷土資料展示室の資料を活用して、郷土の歴史・人物・自然環境などに関する講座を実施する。
最終目標値	①指定文化財の保護及び伝統芸能の保存に補助金を交付する。 ②包蔵地に係る埋蔵文化財について、開発予定地が該当する場合は、試掘を実施する。 ③郷土の歴史・人物・自然環境などに関する講座を年間1回程度実施する。
実施・進捗状況評価	○:概ね実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	① 100%/100%(R5実績1件/R5目標1件) ② 100%/100%(R5実績1件/R5目標1件) ③ 評価に馴染まない(数値目標に馴染まない等)
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	歴史・自然・地理など、川島町の環境に係るの特徴を知ることのできる講座を継続的に実施し、参加者の興味・関心を得るための工夫が必要である。
担当課	生涯学習課

施策取組状況確認シート	
基本方針	3 快適環境の保全
対象分野	3 廃棄物・リサイクル
環境保全の目標	適正なごみ処理事業を継続し、環境への負荷の削減に努めます。
行政の施策	①ごみの減量化の推進 ②リサイクルと適正処理の推進
取組事業名	①小中学生を対象としたごみ処理施設見学や体験学習の継続実施 ②事業系ごみの減量に向けた搬入車両に対する搬入物検査の実施 ③庁舎内から排出される紙ごみの分別徹底による再資源化の実施 ④資源ごみの回収推進に向けて、集団回収への補助金の交付を継続実施
計画期間	継続的に実施する
成果指標	事業の実施及び参加者数
R5目標値	年間を通じて事業実施の有無、施設見学は受け入れ人数150人
R5実績値	取組事業においては全て実施 受入人数は122人
R6目標値	年間を通じて事業実施の有無、施設見学は受け入れ人数100人
最終目標値	焼却施設の停止まで、規制値未満の数値を継続させる。
実施・進捗状況評価	◎：順調に実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値／R5目標値	100%(予定した取組事業は実施)
目標達成度評価	○：概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	ごみの減量化やリサイクル、適正処理の推進は継続的に実施いくことで最終的に成果、評価になると考える。
担当課	町民生活課(施設管理グループ)

施策取組状況確認シート	
基本方針	3 快適環境の保全
対象分野	4 環境美化、不法投棄対策
環境保全の目標	ごみの散乱や不法投棄のない清潔な地域環境の創出に努める。
行政の施策	① 美化活動の推進 ② 不法投棄対策の充実・強化
取組事業名	①-1 美化運動の実施 ①-2 野外焼却原則禁止の周知・指導 ②-1 シルバー人材センターによる町内巡視・パトロール ②-2 空き地の適正管理(雑草等) ②-3 不法投棄監視カメラの設置 ②-4 不法投棄ごみ回収・処分費補助金
計画期間	①-1 年3回 ①-2 通年 ②-1 月間計画表に基づき実施 ②-2 通年 ②-3 通年 ②-4 通年
成果指標	①-1 美化運動に参加する町民の割合(総人口比) ①-2 野外焼却の原則禁止に関するPR周知回数 ②-1 } ②-2 } 不法投棄件数(悪質・多量・解体廃棄物系など) ②-3 } ②-4 }
R5目標値	①-1 21.2% (美化運動に参加する町民の割合(総人口比)) ②-2 1回/年 ②-1 } ②-2 } 4件(悪質・多量・解体廃棄物系など) ②-3 } ②-4 }
R5実績値	①-1 19.7% (美化運動に参加する町民の割合(総人口比)) 内訳:6月(22.3%:4,240人/19,052人) 10月(12.7%:2,405人/18,947人) 2月(24.0%:4,584人/18,839人) ①-2 2回/年(広報4月・11月号) ②-1 } ②-2 } 不法投棄件数 0件(※悪質・多量・解体廃棄物系など、業者委託による撤去が必要な案件) ②-3 } ②-4 }
R6目標値	①-1 21.2% (美化運動に参加する町民の割合(総人口比)) ②-2 1回/年 ②-1 } ②-2 } 3件(※悪質・多量・産業廃棄物系など、業者委託による撤去が必要な案件) ②-3 } ②-4 }
最終目標値	①-1 25.0% (美化運動に参加する町民の割合(総人口比)) ①-2 - ②-1 } ②-2 } 3件(※悪質・多量・産業廃棄物系など、業者委託による撤去が必要な案件) ②-3 } ②-4 }
実施・進捗状況評価	◎:順調に実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	①-1 92.9% (美化運動に参加する町民の割合(総人口比)) ②-2 100% ②-1 } ②-2 } 100% ②-3 } ②-4 }
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	・美化運動の参加者は高齢者が多く、年々人員の確保が困難との声がある。一斉に実施する地域活動は重要だが、個々で行うごみ拾いなども支援できるよう考えていく必要あり。 ・野外焼却の禁止については、広く知られるようになっているが、依然として、年間数件の苦情が発生しており、禁止されていることを知らない方もいるため、引き続き周知、啓発を行う必要がある。 ・不法投棄については、ポイ捨てから産業廃棄物系(解体廃材・コンクリートガラ)など千差万別で、多量・悪質性の高い事案については年数件程度ではあるが、発生することもある。不法投棄については、「しない」、「させない」、「許さない」環境づくりが重要なため、啓発看板の設置、シルバー人材センターによる巡視などで不法投棄しにくい環境づくりに努めていく必要がある。(※令和4年度からは、不法投棄ごみ回収・処分費補助金交付要綱・川島町不法投棄監視カメラ設置等に関する要綱を制定し、不法投棄への対応、防止・抑止を図っている。)
担当課	町民生活課(生活環境G)

施策取組状況確認シート	
基本方針	4 環境保全活動の推進
対象分野	1 地球温暖化防止
環境保全の目標	地球温暖化防止に向けて、日常生活や事業活動を見直す。
行政の施策	① 町の事務事業からの温室効果ガスの排出削減
取組事業名	①ー1 エコアップ推進活動(クールビズの励行・空調機器の適切な温度管理) ①ー2 庁舎の太陽光発電設備の導入 ①ー3 EV充電設備の設置
計画期間	①ー1 随時実施 ①ー2 平成27年11月末より稼働中 ①ー3 令和6年度末まで
成果指標	①ー1 随時実施しているものであり、目標設定になじまない ①ー2 工事の完了 ①ー3 町内公共施設8箇所にEV充電器を設置
R5目標値	①ー2 100% ①ー3 100%
R5実績値	①ー3 75%(6施設設置完了)
R6目標値	①ー2 100%
最終目標値	①ー2 100% ①ー3 100%
実施・進捗状況評価	◎:順調に実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	①ー2 100% ①ー3 75%
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	①ー1 空調設備の一律温度管理は、部署ごとに寒暖差があるので、執務環境を低下させないように、状況把握しながら進めていく必要がある ①ー2 太陽光発電設備の導入状況を更に周知し、環境教育等の啓発活動に結び付けていきたい ①ー3 民間事業者と連携し、温室効果ガス排出を抑えていきたい
担当課	政策推進課(管財・契約グループ)

施策取組状況確認シート	
基本方針	4 環境保全活動の推進
対象分野	1 地球温暖化防止
環境保全の目標	地球温暖化防止に向けて、日常の生活や事業活動を見直す。
行政の施策	① 町の事務事業からの温室効果ガスの排出削減 ② 町民や事業者の意識向上
取組事業名	① 地球温暖化対策実行計画(事務・事業編)の推進 ② 町民や事業者の意識向上
計画期間	① 通年 ② 通年
成果指標	① H28比 CO2 15%減少。 ② HPでの情報掲載
R5目標値	① H28比 CO2 15%減少 ② HPへの情報掲載
R5実績値	① 令和5年度数値は未確定であるが、目標達成は困難な状況。(※参考:R4年度削減率0.37%) ② 未掲載
R6目標値	① 各課の施設更新計画・取組が計画どおり実施できているか進捗状況。なお、年度ごと削減状況の把握を行う。 ② 1回
最終目標値	① 50%以上CO2を削減。(H28比) ② 2回
実施・進捗状況評価	×:大幅に遅れている
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	① 令和5年度数値は未確定だが、目標達成は困難な状況。(※参考:R4年度削減率0.37%) ② 未実施。
目標達成度評価	△:目標を下回った(目標に対し80%未満)
課 題	・計画期間が令和6年度から令和12年度までの新たな川島町地球温暖化対策実行計画(事務・事業編)がスタートする。前計画(計画期間令和元年度から令和5年度)では、排出係数の減少、職員の節電への取組による電力使用量の削減で目標達成が出来ると見込んでいたが、排出係数は見込みより減少せず、空調の使用量が職員の節電への取組より多かったことなどにより、目標達成が出来なかった。新たな計画では、職員による節電などの取組については、必要な取組として継続するが、今後は、ハード面の対策(LED化・公用車のEV化・省エネ設備への更新など)を推進させていく計画とした。ハード面の対策については、財源の問題もあるが、目標達成のためには、ハード面の推進が必要不可欠であるため、各課から取組・計画を提出してもらい、事務局にて進捗管理を行っていく。 ・町民や事業者への意識向上については、未実施となってしまったため、令和6年度では、事業者の取組などを聞き取りし、HPに情報掲載、周知するなどして、温暖化対策の意識向上につなげていく。
担当課	町民生活課(生活環境グループ)

施策取組状況確認シート	
基本方針	4 環境保全活動の推進
対象分野	1 地球温暖化防止
環境保全の目標	地球温暖化に防止に向けて、日常の生活や事業活動を見直す。
行政の施策	① 温室効果ガスの排出削減 ② 町民や事業者の意識向上
取組事業名	温室効果ガスの排出削減事業(学校への太陽光発電設備等の導入事業)
計画期間	① 毎年度実施(川島中学校については、2023年度以降) ※川島中学校については、現行の屋上については、建物構造上設置できない。
成果指標	①小中学校への太陽光発電設備及び蓄電池設置
R5目標値	① 87.5%(現状値) ※平成30年3月31日をもって、閉校となった2校を除くと83.3%(6校中5校設置済み)
R5実績値	① 87.5%(新規設置なしの現状どおり)
R6目標値	① 87.5%(新規設置なしの現状どおり)
最終目標値	① 100%(2023年度以降)
実施・進捗状況評価	○:概ね実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値／R5目標値	87.5%(8校中、川島中学校を除く7校に設置済み)(平成29年度末) 83.3%(廃校となった2校を除く6校中、川島中学校を除く5校に設置済み)(平成30年度～)
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	新規設置については、国庫補助金や県補助金を活用したが、今後の更新等については、全額町予算で対応する必要があり財政的な負担が大きい。また、廃校となった2校に設置してある設備については、跡地の活用次第によっては、処分等を行う必要もある。
担当課	教育総務課(学校教育グループ)

施策取組状況確認シート	
基本方針	4 環境保全活動の推進
対象分野	2 省エネ・省資源
環境保全の目標	適切な支援施策により、家庭や事業所での効果的な省エネを推進する。
行政の施策	①省エネ・省資源の取り組み、省エネ機器の普及の推進 ②自動車利用に際しての省エネの推進
取組事業名	①-1 庁舎等公共施設への再生可能エネルギー(中水設備、地中熱利用設備)の導入 ①-2 低燃費・低公害車(PHEV・ハイブリッド・EV等)の導入 ②-1 エコドライブの実施 ②-2 地域公共交通の導入
計画期間	①-2 令和6年度末まで ※他については通年実施
成果指標	①-1 工事の完了。 ①-2 全公用車における低公害車等の割合。 ②-1 安全運転講習等により繰り返し教育していくものであり、目標設定になじまない。 ②-2 地域の実情に合わせ、その都度見直していくものであり、目標設定になじまない。
R5目標値	①-1 100% ①-2 12.00%(公用車50台中、6台のハイブリッド車)
R5実績値	①-1 平成27年11月末より稼働中。 ①-2 公用車50台中、6台をハイブリッド車に更新済み(全体の12.00%) ※トヨタ(プリウス、カムリ、カローラ)・ホンダ(フィット)・日産(セレナ)・スズキ(アルト)
R6目標値	①-1 100% ①-2 12.00%(6台)
最終目標値	①-1 100% ①-2 14.00%(7台)※令和6年度末
実施・進捗状況評価	○:概ね実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	①-1 100% ①-2 100%
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	①-1 導入状況を更に周知し、環境教育等の啓発活動に結び付けていきたい。 ①-2 予算の制約もあるが、EVの導入など環境に配慮した取り組みを率先して行っていく必要がある。 ②-1 特に運転技術が未熟なものへの教育を重点的に実施していく必要がある。 ②-2 費用対効果や民間バス事業者等とのバランスを踏まえ、適切かつ持続可能な交通弱者支援策を実施する必要がある。
担当課	政策推進課(管財・契約グループ)

施策取組状況確認シート	
基本方針	4 環境保全活動の推進
対象分野	2 省エネ・省資源
環境保全の目標	適切な支援施策により、家庭や事業所での効果的な省エネを推進する。
行政の施策	① 省エネ・省資源の取り組み、省エネ機器の普及の推進
取組事業名	① 町民、事業者等への啓発
計画期間	① 通年
成果指標	① 省エネ等に関する情報発信回数
R5目標値	① 1回以上
R5実績値	① 1回(※9都県市首脳会議環境問題対策委員会主催の省エネ家電買替キャンペーンチラシ配架による周知)
R6目標値	① 2回
最終目標値	① 継続的な広報・啓発に努め、町民が日々の生活で省エネに取り組む世帯の割合50%。(計画見直し時にアンケート調査を予定。)
実施・進捗状況評価	△: やや取組が遅れている
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	① 広報周知は未実施となってしまったが、9都県市首脳会議環境問題対策委員会主催の省エネ家電買替キャンペーンチラシを窓口・ラウンジに配架、周知。
目標達成度評価	○: 概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	① 情報発信を実施、周知啓発に努めていくが、新たな取組が乏しいため、新規事業の創設など研究していく必要あり。
担当課	町民生活課(生活環境グループ)

施策取組状況確認シート	
基本方針	4 環境保全活動の推進
対象分野	3 環境教育・環境学習
環境保全の目標	環境教育・環境学習の推進により、町民や事業者の環境保全意識を高揚させる。
行政の施策	① 環境情報の提供の推進 ② 環境教育・環境学習の活発化
取組事業名	①、② 小学生を対象とした、ごみ処理施設見学会の実施、田園環境の保全と農業の活用(みどりの学校ファームなどの農業体験事業の促進など、環境教育を推進する。)
計画期間	① 随時実施 ② 毎年度実施
成果指標	①、② 小学生を対象とした、ごみ処理施設見学会の実施、田園環境の保全と農業の活用(みどりの学校ファームなどの農業体験事業を促進し、環境教育を推進する。)機会を持つことができたか。
R5目標値	①、② 小学生を対象とした、ごみ処理施設見学会の実施、田園環境の保全と農業の活用(みどりの学校ファームなどの農業体験事業を促進し、環境教育を推進する。)の機会としての環境学習の実施。
R5実績値	① 毎年度、小学生を対象とした、ごみ処理施設見学会の実施、川島町みどりの学校ファーム推進協議会を開催し、関係機関との情報交換を行った後、各校でそれぞれ農業体験を行い、環境教育の推進が図れた。 ② 毎年度、小学生を対象とした、ごみ処理施設見学会の実施、川島町みどりの学校ファーム推進協議会を開催し、関係機関との情報交換を行った後、各校でそれぞれ農業体験を行い、環境教育の推進が図れた。
R6目標値	①、② 小学生を対象とした、ごみ処理施設見学会の実施、田園環境の保全と農業の活用(みどりの学校ファームなどの農業体験事業を促進し、環境教育を推進する。)の機会としての環境学習の実施。
最終目標値	①、② 小学生を対象とした、ごみ処理施設見学会の実施、田園環境の保全と農業の活用(みどりの学校ファームなどの農業体験事業を促進し、環境教育を推進する。)の機会として、継続的に環境学習を実施していく。
実施・進捗状況評価	○:概ね実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	100%
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	特になし。
担当課	教育総務課(学校教育グループ)

施策取組状況確認シート	
基本方針	4 環境保全活動の推進
対象分野	3 環境教育・環境学習
環境保全の目標	環境教育・環境学習の推進により、自然環境保全に向けた意識を高める。
行政の施策	①環境情報の提供の推進 ②環境教育・環境学習の活発化
取組事業名	①地域子ども教室(2箇所で開催) ②自然体験教室
計画期間	①平成18年度から実施中 ②平成26年度から実施中
成果指標	①各地区の体験活動における環境学習の導入件数 ②環境学習を主題とした講座等参加者数
R5目標値	①「環境学習」を主題とした活動を実施する。 実施例:「田植え、稲刈り」(伊草っ子くらぶ)「さいたま水族館で近郊の生態系を学ぶ」(つばさ南っ子) ②荒川太郎右衛門地区自然再生協議会等、荒川流域の自然保護活動を行っている団体や、町内の企業等と連携し、「環境学習」を主題とした講座を実施する。 はるかぜウォーク:参加者数(目標)270名、公民館講座:参加者数(目標)各回20名。
R5実績値	①「田植え」(伊草っ子くらぶ)「さいたま水族館で近郊の生態系を学ぶ」(つばさ南っ子)等を実施した。 ②(1)はるかぜウォーク時に、荒川太郎右衛門地区自然再生協議会等、荒川流域の自然保護活動を行っている団体の発表会・見学会を実施(参加者数:226名) (2)「生き物ふしぎ大発見～小学生理科教室～」(公民館講座)を実施(参加者数:8名) 「家庭菜園体験」(公民館講座)を実施(参加者数:24名)
R6目標値	①各教室で1回以上の自然体験、環境を考える教室を実施する。 ②「環境学習」を主題とした講座を実施し、参加者数を増やす。 (はるかぜウォーク:200名、公民館講座:各回20名)
最終目標値	①各教室において「環境学習」を主題とした活動を年間1回程度実施する。 ②(1)参加者数200名を目標とする。(はるかぜウォーク) (2)参加者数各回20名を目標とする。(公民館講座)
実施・進捗状況評価	◎:順調に実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	① 100% ②(1)80% (2)80%
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%以下を達成)
課 題	①実施年に応じて、「田植え稲刈り」や「さいたま水族館見学」といった活動を通して、環境について学んでいるものの環境を主題とした活動数が少ない。今後、活動を増やしていくとともに、既存の活動の中で環境問題にふれることができるように工夫したい。 ②天候によって実施が左右される。自然環境の保全という趣旨だけでは参加者の興味・関心を得ることが難しい。自身が住んでいる地域の自然環境に興味を持たせる工夫が必要である。
担当課	生涯学習課

施策取組状況確認シート	
基本方針	4 環境保全活動の推進
対象分野	4 環境保全活動
環境保全の目標	地域が一体となった環境保全活動の推進により、『良好な地域社会が良好な地域環境をつくり、良好な地域環境が良好な地域社会をつくる』という環境と社会の好循環を形成する。
行政の施策	① 自発的な環境保全の取り組みの推進 ② 連携・協力による環境保全の取り組みの推進
取組事業名	① エコアクション21認証取得に向けた無料講習会開催 (川越市・富士見市・坂戸市・日高市・川島町の共同事業) ※エコアクション21は、事業者の環境への取り組みを促進するとともに、その取り組みを効果的・効率的に実施するため、ISO14001規格を参考としつつ、中小企業にとっても取り組みやすい環境経営システムの在り方を規定したもの。この環境経営システムを構築、運用、維持することにより、環境への取り組みの推進だけでなく、経費の削減や生産性の向上等、経営面でも効果あり。共同事業とすることで、3社以上の参加事業者確保が必要となるが、研修会費用(全5回・15万円)が無料になるなどのメリットがある。
計画期間	① 年間全5回の研修会を予定。
成果指標	① エコアクション21認証登録件数
R5目標値	① 町内1事業者以上の認証登録。
R5実績値	① 町内事業者0件(全体でも0件)。 川越市、日高市、富士見市、坂戸市と合同で講習会を開催。参加企業は無料で受講できる。講習会開催のための事前打合せ、町HPによる事前周知。
R6目標値	① 町内1事業所以上の登録申請
最終目標値	① 3団体
実施・進捗状況評価	△:やや取組が遅れている
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	① 0%
目標達成度評価	△:目標を下回った(目標に対し80%未満)
課 題	① 町HPで周知したが、町内企業の参加はなかった。今後もエコアクション21に取り組むメリット等について継続的な周知が必要。
担当課	町民生活課(生活環境グループ)

施策取組状況確認シート	
基本方針	4 環境保全活動の推進
対象分野	4 環境保全活動
環境保全の目標	地域が一体となった環境保全活動の推進により、『良好な地域社会が良好な地域環境をつくり、良好な地域環境が良好な地域社会をつくる』という環境と社会の好循環を形成する。
行政の施策	① 自発的な環境保全の取り組みの推進 ② 連携・協力による環境保全の取り組みの推進
取組事業名	② さくら猫無料不妊手術事業 ※事業開始: R4.4.1から (公益財団法人どうぶつ基金が実施する事業へ参加: 飼い主のいない猫の不妊・去勢手術を受けさせるため、申請者は基金が発行する無料チケットを町へ申請し、指定協力動物病院にて手術を受けた後、元居た場所へ戻す。野良猫が増えないようにし、生活環境への被害を抑制する。)
計画期間	② 通年
成果指標	② さくら猫無料チケット利用手術頭数
R5目標値	② 20頭
R5実績値	② 39頭(見込み)
R6目標値	② 40頭
最終目標値	② 40頭 ※飼い主のいない猫による、フン、おしっこ被害のゼロ、殺処分ゼロを目指し、さくら猫事業を普及させていく。
実施・進捗状況評価	◎: 順調に実施・進行している。
目標達成状況(%) R5実績値/R5目標値	② 195%
目標達成度評価	◎: 目標以上に達成した(100%を超える達成)
課 題	② 飼い主のいない猫に関する苦情(フン尿の被害等)は、依然として寄せられているため、地域住民との連携により、本事業を推進させていく。また、申請者から捕獲用のオリがないと捕まえないとの声に対応するため、町でオリを購入(2台)。R5.4.1から貸出要綱により貸出開始。さらに、さくら猫基金を活用しない方へも広く貸出可能とするため、要綱の見直し(R5.8.14～)を行った。野良猫対策の有効な施策であるさくら猫事業を、さらに推進していくため、情報発信等も行っていく必要がある。
担当課	町民生活課(生活環境グループ)

